

◆平成25年度茨城県近代美術館と学校との連携事業 <作家派遣事業>

1 実施校について

○古河市立駒羽根小学校 5年生 61名

平成25年12月12日(木) 3校時～6校時

今回、作家派遣事業の実施にあたり、県内の小学校、中学校、特別支援学校などから合計で9校の応募があり、抽選にて実施校を決定しました。



内海さんの作品を前に

<実施までのスケジュール>

- | | |
|---------------|-------------------------------------|
| (1) 募集 | 9月～10月 |
| (2) 事前打ち合わせ | 11月5日(火) 駒羽根小学校にて |
| (3) ワークショップ実施 | 12月12日(木) |
| (4) 作品展示 | 平成26年1月15日(水)～平成26年2月9日(日) |
| (5) 事業報告 | 第3回美術館セミナーとして実施
※平成26年1月26日(日)開催 |

2 講師

うちうみ さとし
内海 聖史 氏 (画家)



1977年，茨城県生まれ。
多摩美術大学大学院美術
研究科修了。「絵画」と「空
間」との関係性が鑑賞者
やその身体感覚にまで及
ぼす制作を行っている。

2007年に徳島県で行わ
れた神山アーティスト・イン・レジデンスにて
ワークショップを開始。以降，2008年，2013
年には東京都現代美術館の教育普及プログラ
ム講師として，子ども向けのワークショップ
を行っている。

<主な展覧会>

「MOTアニュアル2004」東京都現代美術館，「屋上庭園」 東京都現代美術館

「風景ルルル～わたしのソトガワとのかかわり方～」 静岡県立美術館

「カイガのカイキ」 足利市立美術館

「panorama- すべてを見ながら，見えていない私たちへ -」 京都芸術センター

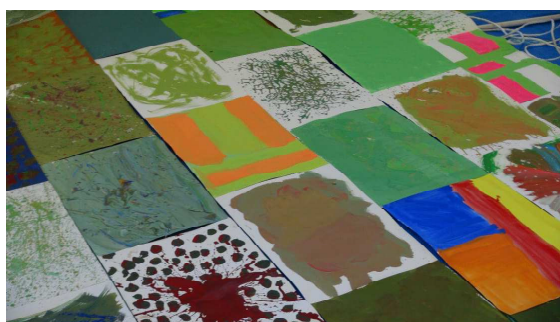
<個展>

「色彩に入る」 資生堂ギャラリー ， 「色彩のこと」 スパイラルガーデン

3 活動内容

『ぼくの色，わたしの色 ～本当の“緑”を探して～』

このプログラムは、自然の中にあるさまざまな色に注目し、大きな筆やパレットなどを使って、オリジナルの“緑”を作り出していくワークショップです。



私たちは、自然の風景を見たときに「緑がきれいだね。」という言葉で表現することがあります。自然の中にある色をよく見てみると、単にビリジアンのような緑色だけではなく、赤や黄，むらさきなど，たくさんの色が混在していることが分かります。つまり，それらの色はすべて自然の中にある色“緑”として捉えることができるのです。

このように，今回のワークショップでは，色に関する固定観念や先入観にとらわれない，一人ひとりの感覚を大切にしていけることがポイントになっています。

◆合い言葉は「この緑，いいね！」

講師の内海さんから，子どもたちの良さを認める言葉かけを大切にしたいという提案があり，「この色，いいね！」を合い言葉にスタッフ全員で子どもたちを支援していきました。



「私，この色好きよ。きれいな“緑”ね。」と，声をかける保護者。

自分の作品をほめられ，満面の笑みを浮かべる児童。



◆強力なサポーター

子どもたちの活動を手助けしようと保護者の方々がサポーターとして参加しました。ワークショップがスムーズに進んだのも、保護者の方々の力があってこそのことでした。



すべては、子どもたちのために。保護者の方々の思いが伝わります。(感謝)

◆いろいろな経験を多くの子どもたちに

本物の作品が学校に展示されることはまれなこと。他学年の先生方もこの機会を生かして子どもたちにいろいろな経験をさせたいと、クラスの児童をつれて、内海さんと交流したり、作品を鑑賞したりしました。



足の間から作品をのぞいたり、飛びはねたみたりと、全身を使って作品を鑑賞する低学年の児童たち。